

## ナシ病害虫の発生状況（8月）

### （1）ナシ黒星病

新梢葉及び果実での発生ほ場割合は、平年並の状況でした（図1、2）。発生の多いほ場では幸水収穫後に秋期防除を徹底し、越冬菌密度の低下を図りましょう。

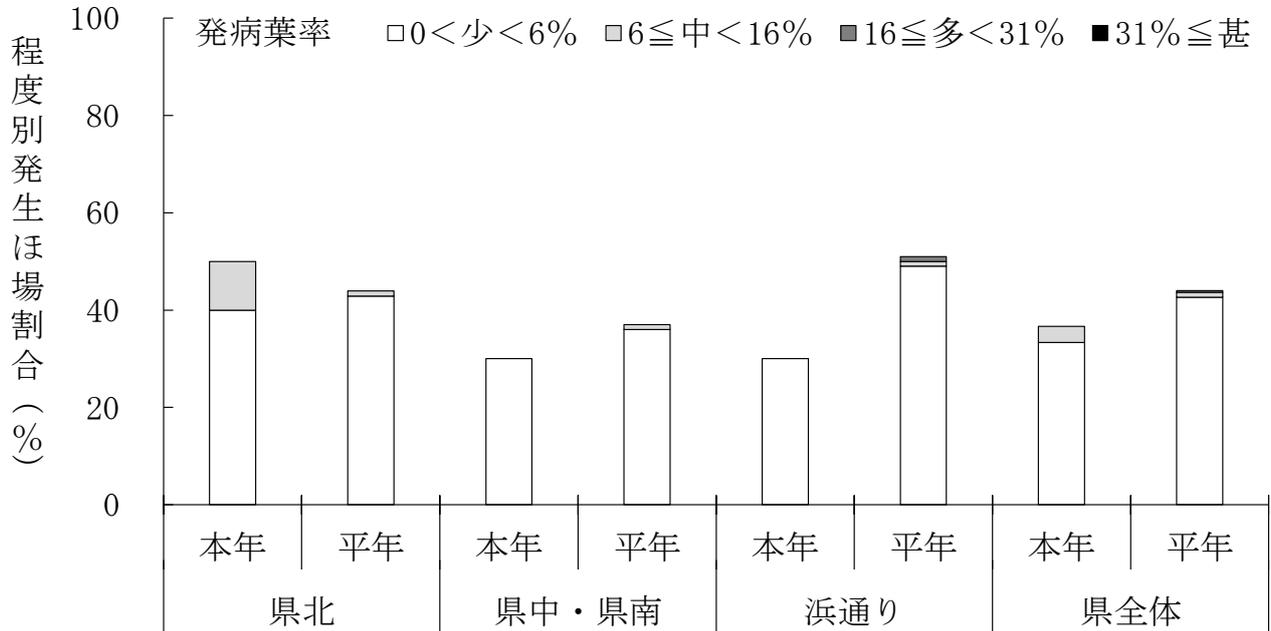


図1 ナシ黒星病の新梢葉での発生状況（8月中旬）

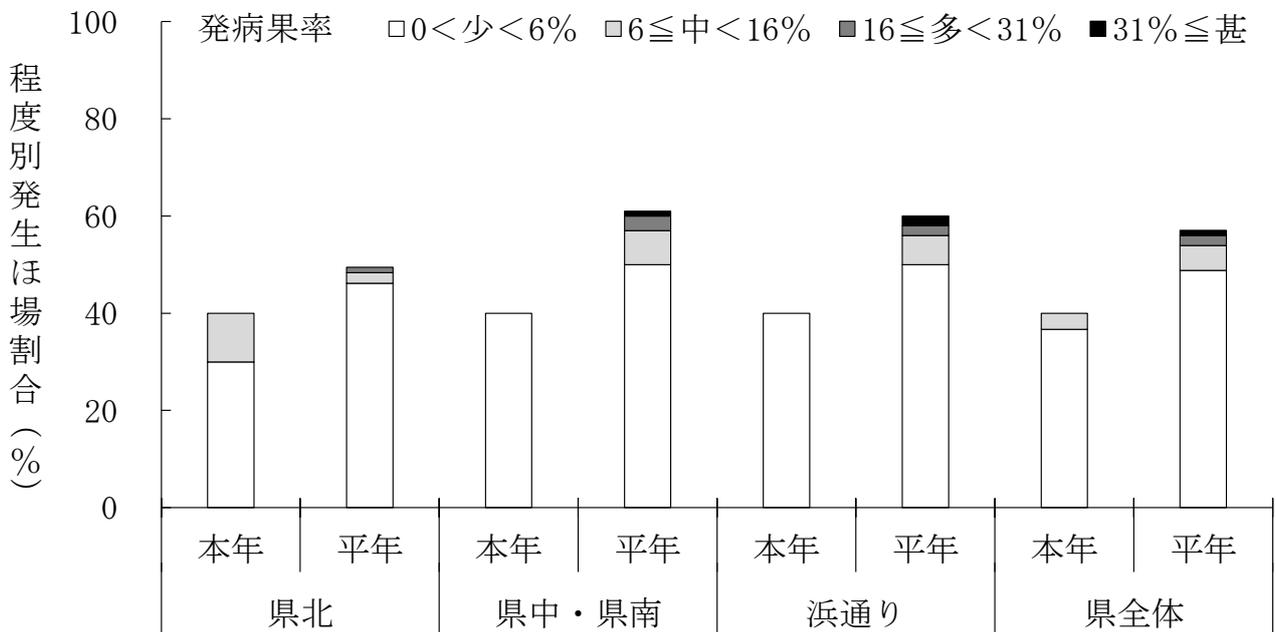


図2 ナシ黒星病の果実での発生状況（8月中旬）

### （2）ナシ輪紋病

果実発病は確認されませんでした。

### (3) シンクイムシ類

ナシヒメシンクイによる果実被害の発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした(図3)。  
 ナシヒメシンクイ第4世代成虫の誘殺盛期は、気温が2°C高く推移した場合、8月6半旬頃と予測され、第5世代幼虫の防除適期は9月1半旬頃と推定されています(農業総合センター果樹研究所、8月26日現在)。  
 本種は、もも等の核果類の新梢伸長が停止すると、なし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、今回以降の防除を徹底しましょう。

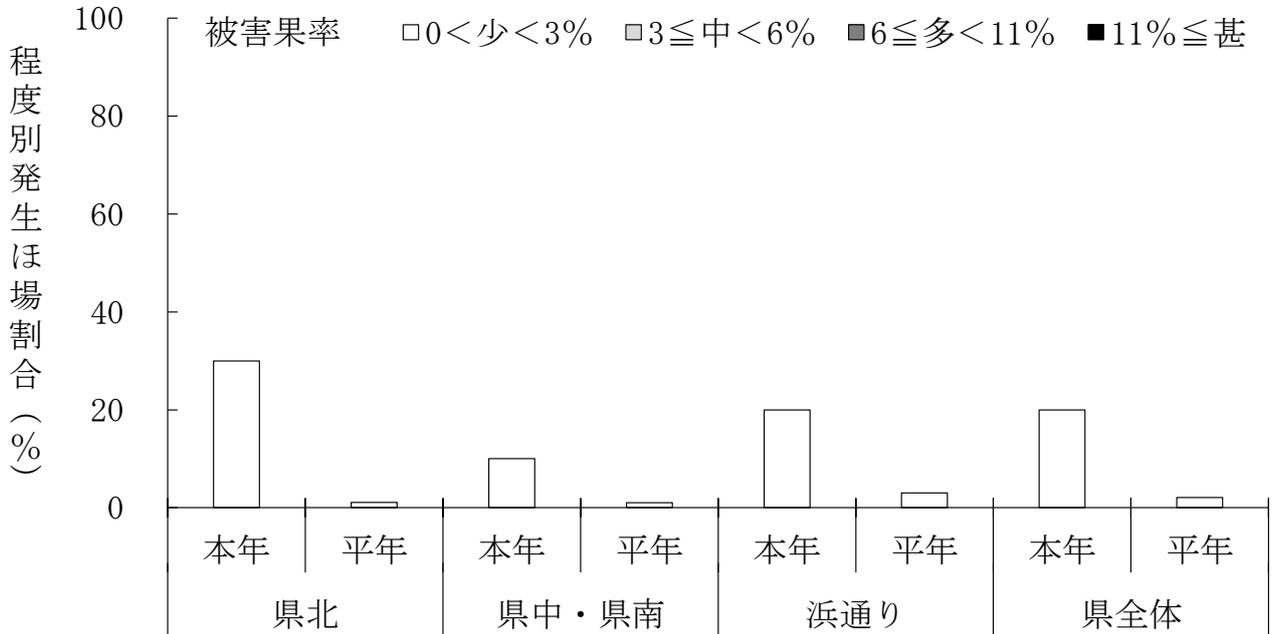


図3 ナシヒメシンクイによる果実の被害状況(8月中旬)

### (4) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした(図4)。園地での発生状況をよく観察し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

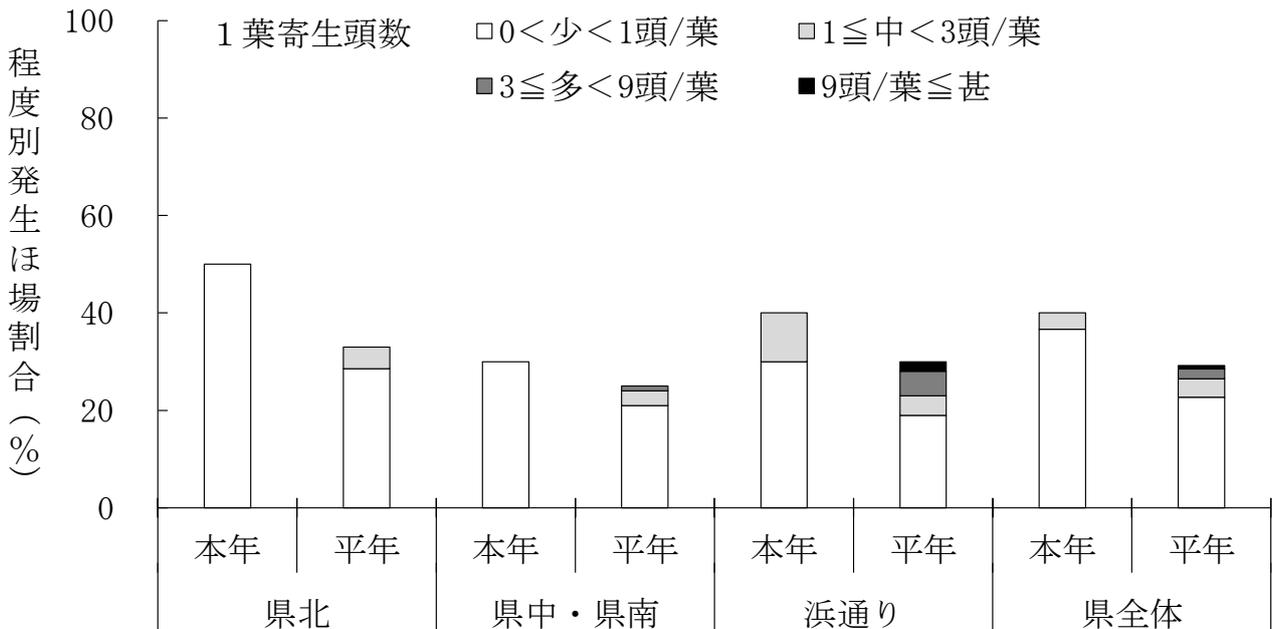


図4 ハダニ類の発生状況(8月中旬)

### (5) カメムシ類

果実被害発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図5）。カメムシ類の園地への飛来状況をよく確認し、多数の飛来が確認された場合薬剤散布を実施しましょう（令和6年7月30日付け令和6年度病害虫発生予察情報注意報第3号参照）

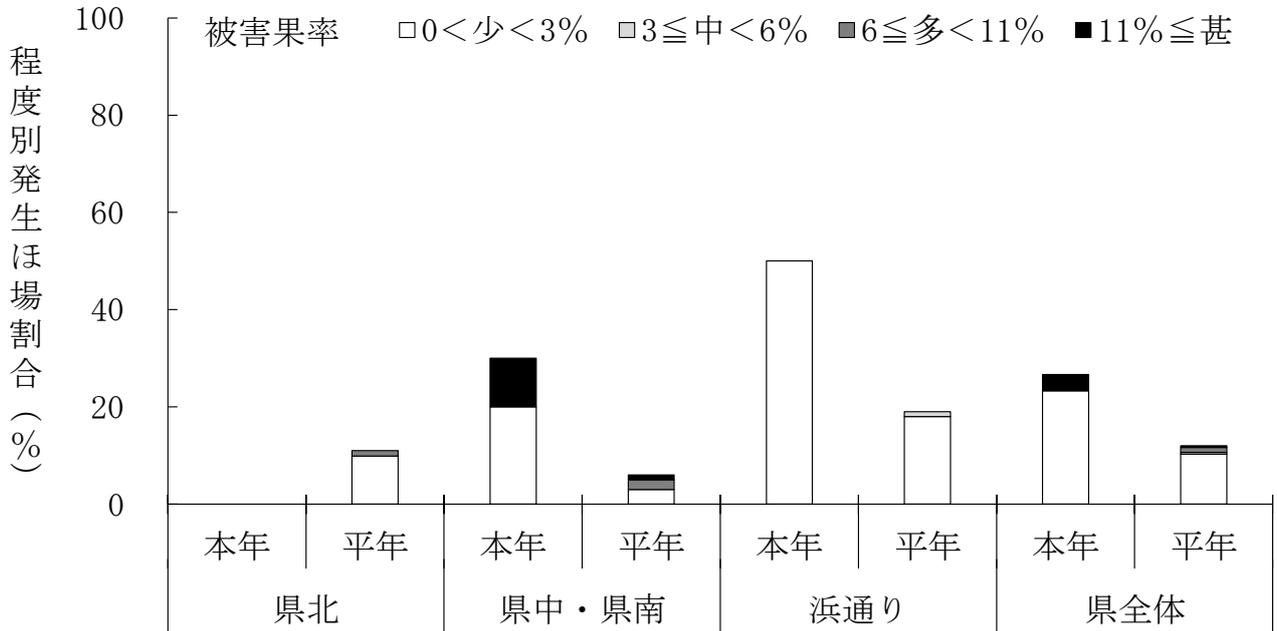


図5 カメムシ類による果実被害の発生状況（8月中旬）